

WGによる検討項目

標準マスター改善サブWG

1. 同一項目に複数のコードが設定可能な場合がある
 2. 結果識別コードに『共通』と『個別』があり、使い方に一貫性がない
 3. 測定法コードを決定できる手順が確立していない
 4. 材料や測定法は、要素に無駄な選択肢が多い
 10. 分析物、識別、材料、測定法、結果の各コードの組み合わせ方法が無数にあるため、既存の検査にコードを割り当てるのが難しい
 11. 識別コードに負荷時間区分や定性定量区分やウイルス種類など、種々雑多な概念が混在している
 12. 負荷試験などで時間を定義されるが、定義(用意)されていない時間が必要な場合どのように表現するのか分からない
 13. 生体（生理）検査への拡張が困難で、これらの領域への対応が不明確である
 16. 検査項目名を決定するために、分析物コードだけで決定する項目と、識別コードが必須な項目が存在する
- その他：分析装置と試薬の組合せで決定可能な JLAC10 のマトリクス表を作成する

標準マスター共用化サブWG

主要300程度の検査項目についてJLAC10およびレセプトコードの付番を行う

運用体制整備WG

5. 新規検査項目に対して新たなコードの発番に時間がかかりすぎる
6. JLAC10に無い新規項目をオリジナルコードにすると標準化コードに戻せなくなる
7. ユーザー領域コード、運用コードの使用が許可されており、標準にならない
8. オリジナルコードと新規に決定されるコードの2種類のコードが用いられることになり、データの管理が困難になる
9. 臨床検査マスタには、JLAC10要素について、すべての組み合わせは存在しない
15. 知名度が低い